事業所における自己評価結果

「事業所における自己評価結果」は、事業所全体で行った自己評価です。

公表:令和 5年 3月27日

事業所名:小平市立たいよう福祉センター

		チェック項目	はい	いいえ	主な意見
環境・体制設備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	7	・基準は満たしているが、収納が充実するとより良い。 ・クラス内で過ごせないときに落ち着けるスペースや利用できる部屋がもうひとつあると良い。
	②	職員の配置数は適切である	5	15	・配置数は適切だが、休暇や欠員があると大変である。 ・年間レベルで積み上げていくクラス集団なので、子どもに関わる保育者の数と関わりの質が1年間変わらないのが理想である。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11	6	・トイレ等は増えたため、以前よりは使いやすくなったが、雨の日の物の置き場に困る。 ・環境ができていない。構造化されるべきものが少なく難しい。工夫して行うが設備が足りない。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	10	・コップの洗浄等、給食室ができたことで衛生的になった。 ・床が冷たい。温水が出ない。 ・クールダウンができる部屋があると良い。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	8	・職員からパートタイム職員にもよく話をしてもらっている。隔日勤務のパートタイム職員にも伝わるようにしている。 ・時間が作れていない。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	4	・保護者の意見等に対するフィードバックができていない。また、改善された点が明示されていない。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	2	/
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	4	/
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	8	・スーパーバイズ、ケース会などがあるが、もっと充実すべきである。 ・コロナの関係で難しくなっているが、園内の研修は参加できる。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	15	2	/

適切な支援の提供

⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	8	・標準化されたものがあるなら知りたい。
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11	3	・「児童発達支援ガイドライン」を知らない人もいるので、周知をするべきである。
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	15	1	
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	15	2	・リーダーの職員がベースを作り、チームで打ち合わせ、工夫している。 ・チームで話す時間が少ない。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	18	2	・固定化し、見直しを持てるようにしているときもある。 ・子どもの特性や組み合わせ等で考えて行っている。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	17	1	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	17	3	・打ち合わせをしてもその通りに進めることが難しい日は、臨機応変に対応している。 ・バスに添乗するときは、打ち合わせできないことがある。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	20	0	
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	17	1	・できている。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	2	
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2	・担当者会議の実施はなし。電話にてのモニタリングのみ参加している。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	4	・必要児には行っている。

	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	0	
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	0	
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	5	・引き継ぎを行っている。 ・保育園、幼稚園からの移行についても引き継ぎは必要である。
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	2	・引き継ぎを行っている。
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	8	
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	16	・コロナで中止になっていたが、再開しても良いか。
	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	7	・参加している。
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14	2	・不足はあると思うが…。
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	7	・固定化されたプログラムはないように思う。 ・困りごと等を聞き、面談、電話、連絡帳等で助言をしている。
保護者への説明責	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	2	
	㉚	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容に説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	2	
	㉛	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	1	

任等	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	13	1	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13	2	・担当不在のまま話を進めたことがあり、適切だったとは言えない。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	14	2	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	17	0	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15	0	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	7	・コロナで中止となるが多かった。今後、増やしていけば良い。 ・特定の人だけが利用するというイメージがある。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	8	・災害を想定した訓練はできているが、防犯はできていない。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	18	0	・行ってはいるが、回数は少ない。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	18	1	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	17	0	今年度はアレルギーの子どもはいなかった。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	20	0	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	5	・施設で義務付けられている研修を受けている。 ・定期的にチェックリストなどで振り返る機会があっても良い。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了承を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	4	・口頭の確認はしているが、計画に記入していない(バスのベルト)。

※回答未記入、不明についてはカウントされていません